



2020 OLIVE ニュース 7月号

月刊紙

8月の予定 3日 ベストフード給食再開 5日 工賃支給 20日 監事会 13~16日 お盆休み

現実の声

理事長 遠藤 節子

▼この度、小規模から工房阿列布を利用して親御さんから、理事・評議員の方々を交えてお話を聞く時間を設けました。皆様一様に親も子も高齢化の域に入っていることもあり、ご家族の葛藤を垣間見ることができ、役員の皆様も心情を察していただきました。この現実を踏まえ、法人は早期見直しを理事会、評議員会に諮ると共に、行政とのコンセンサスをはかりながら、一日も早く実行できるように進めてまいりたいと思います。



役員会を開催しました

法人事務局 加藤 友設

7月30日(木)、丹野政一様(元障害福祉課課長)を招き、役員の皆様へ『障害福祉制度の沿革とこれから』についての講義をしていただきました。



話は障害者総合支援法と障害福祉サービス制度の成り立ちから始まり、国が進める『障害者の入所施設から地域への移行』『障害者・児童・高齢者などの枠に捉われない福祉体制づくり』『新型コロナ感染や日中貿易摩擦による経済低迷とこれら情勢が加速する可能性について』等、多岐に渡りました。また、親なきあと問題と関連し『成年後見人制度』や2018(平成31)年から制度化され24時間ケアを想定した『日中支援型グループホーム』についても話されました。今後も職員や役員の皆様が福祉情勢等を学べる機会をつくり、利用者様やご家族へより良い支援が提供できるよう進めたいと思っています。

ちょっとしたいい話(買い物難民について)

管理者 奥村 和子

十数年前より、「買い物難民」という言葉を聞くようになりました。

日当たりの良い、高台の団地に住む高齢者で、運転免許を持っていない人・免許を返納した人、公共交通機関であるバスの減便や廃止等の影響を受けた人など自分の団地から簡単に出ることができなくなりました。団地の中にスーパーは無く、生活に必要な物を購入することが難しくなり、多くの高齢者にとって、生活が不便になったという実感があります。そんな中、7月20日の朝刊に、市の地元スーパーが新しく移動スーパーを始めるため、そのオーナーを募集する旨のチラシが入りました。チラシを見た時、少し前までは魚販売の車が来て、その場で魚を捌いてくれていたことを、ふと思い出しました。都会でも一人暮らしの高齢者のために昔なじみの御用聞き制度が復活しているところがあるそうです。移動スーパーのチラシを見て、いわき市にも弱者の味方ができたような気になり少し嬉しくなりました。移動スーパーが登場すると、買い物難民は救われるわけです。もちろん、スーパー側にもメリットがあつて始めることだとは思いますが、弱者にも少し光が当たったようで、笑みがこぼれました。

寄付、物品寄贈の皆様(R2.4~7月)

フラワー花門様、曳地 令子様、比佐 住江様、石井 マサ子様、遠藤 哲郎様、根本 フク子様、鈴木 テルヨ様、長谷川 雅子様、渡辺 和子様、渡辺 忠行様、大平 みつ子様、金成 京子様、松下 和江様、小関 敏子様、大和田 孝子様
(順不同) ありがとうございました。